
~ 双剣覚醒発売記念企画 ~ バカとイメージと先導者 V S ゆるい口ウきゅーぶ

ベガF91

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『双剣覚醒発売記念企画』 バカとイメージと先導者VSゆるい
ロウきゅーぶ

【Nコード】

N9851Z

【作者名】

ベガF91

【あらすじ】

カードファイト!!ヴァンガード第五弾『双剣覚醒』の発売を記念して書いた小説です。コラボ企画で今現在連載中の『バカとイメージと先導者』と『ゆるいロウきゅーぶ』のコラボです。それぞれのキャラクターたちがヴァンガードファイトします。

出会い編（前書き）

14日発売のカードファイト!!ヴァンガード第五弾『双剣覚醒』の発売を記念としてコラボ小説を書き上げました。

出会い編

それはある日のことだった。七森中の生徒会副会長の杉浦綾乃は嬉しそうにスキップをしていた。同じ生徒会メンバーである池田千歳とともに倶楽部へ向かう。

いつも倶楽部は慧心学園の女子バスケット部のコートに行くため不在だったのだが、今回はコートはないと聞いたため来ている。

すべては京子に会うために。そして部室に着き、綾乃は勢いよく扉を開ける。

「京子お　！　……ってあれ？」

思わず間拔けた声が出てしまう。見てみると京子たちは何やら準備している様子であった。結衣とあかりは京子の指示に従ってテーブルを運んでおり、ちなつは掃除をしていた。

「ほら、そこにおいて」

「てか、京子先輩何してないじゃないですか」

「え？　ちょっと、何してるのよ……？」

「あ、綾乃ー」

京子が綾乃に気づく。そして綾乃は今何をやっているのか京子たちに聞いてみる。

「いったい何してるのよ。てかそのテーブルはなんなのよ」

「あー。それはその意味を知るためにあるんだよ」

「いや、そういう哲学的な答えを期待しているんじゃないと思う」

「すみません、遅れました」

ここで智花たち慧心学園の女子バスケット部のメンバーが来た。

「あ、来た来た」

「え？ 智花ちゃんたち。どうして？」

「みんなは持ってきたかな？」

「「「「はい」」」」

京子の質問に答えるかのように何やらカードのデッキケースみたいなものを京子たちに見せる。しかし、そのカードゲームを知らない綾乃は戸惑ってしまう。

「えー！？ それ何？」

「あー。ヴァンガードや」

「へ？ ヴァンガード……？」

千歳は知っているようで綾乃は知らない様子。すると、千歳のポケットからデッキケースが出てくる。

「うちもやってるんやで」

「え？ 千歳もって……、京子たちもやってるの？」

「うん。ほら」

京子たちもヴァンガードのデッキケースを取りだし綾乃に見せる。しかし、綾乃は全く知らないためかますます戸惑うばかりである。

「ちょっと！ なんなの！？ ヴァンガードって！」

「何ってカードゲームだけど」

「だからー！」

「あの一、七森中の倶楽部ってここですか？」

すると、今度は別の学校の制服を着た生徒たちがやってくる。

「え？ 誰なの、あなたたち……？」

「おー。あきりんたち、待ってたよー」

「やあ、歳納さん……ってその呼び名はやめてって言ってるじゃん」

「まあまあ」

あきりんと呼ばれるその人物は茶髪に少し女性に見える顔立ちをした少年、吉井明久で他にもいろいろ個性豊かな人たちが14人いた。

すると、その制服を見た綾乃は思わずびっくりしてしまう。

「てか、その制服って文月学園の生徒たちじゃないの！」

「うん」

「明久君、この人たちが前話してた人たちの？」

青い髪で可愛い容姿をした少年（？）、先導アイチが明久に声をかける。

「うん。アイチ、この子たちが前話した七森中の倶楽部と慧心学園の女子バスケットだよ」

「いかにも、私が倶楽部の部長にして、この中学で一番の美少女、歳納京子だよん」

「いつから美少女になったんだ？」

「もう、ひどいなー。ゆいにゃんは」

京子の自己紹介をした後、他のみんなもそれぞれ自己紹介をしていく。

「船見結衣です」

「赤座あかりです。京子ちゃんと結衣ちゃんとはひとつ年下の中学1年生です」

「あかりちゃんと同じく、吉川ちなつです」

「け、慧心学園初等部、湊智花です」

「同じく、三沢真帆です」

「永塚紗季です」

「か、香椎愛莉……です」

「ひなた、袴田ひなた」

七森中の倶楽部と慧心学園の紹介が済んだところで今度はアイチたちの出番となる。

「僕は先導アイチです」

「權トシキだ」

「戸倉ミサキ」

「俺様は葛木カムイ。小学6年生だ」

「俺は三和タイシ。權とは昔からの親友さ」

「俺は森川カツミ！ アイチは俺の一番弟子だ！」

「おいおい……俺は井崎ユウタ」

「先導エミです。アイチの妹です」

「私はカードキャプタルの店長、新田シンです」

「僕たちは、もう知っているから紹介しなくてもいいかな、歳納さん」

「いや待て、明久。まだ知らない奴が2人いるだろ」

赤髪に背が高く逞しい体を持つ少年、坂本雄二がまだ顔見知りの綾乃と千歳を見て明久に言う。

「あー、ゴメン。じゃあ紹介するね。僕は吉井明久」

「俺は坂本雄二」

「姫路瑞希です」

「ワシは木下秀吉じゃ」

「……………土屋康太」

自分たちの自己紹介が終わると今度は綾乃たちも紹介していく。

「わ、私は杉浦綾乃。この中学校の生徒会副会長をしています……………」

「うちは池田千歳。綾乃ちゃんと同じく生徒会メンバーやで」

「よろしく、杉浦さん、池田さん」

ここでようやく本題に入ると綾乃が京子に聞いてみることに。

「それで、智花ちゃんたちはともかく、なんでこの人達もこの部室

に来てるわけ……?」

「あー、綾乃ちゃん聞いておらんかったっけ?」

「何を?」

「実は、1月14日に発売する、ヴァンガード第五弾『双剣覚醒』の発売を記念として別の小説の人たちとヴァンガードファイトするんだよ」

「それで、生徒会にはそのことを言ったんだけど……京子、綾乃には言わなかったのか?」

「いやー、その時、綾乃は風邪で休んでたじゃん」

「な、なんでそういうことを早く言わないのよ!」

「せっかくだから、綾乃にびっくりさせようと思って内緒にしていたんだー。まさしくサプライズヴァンガード」

「そんなサプライズ、いらないナイアガラよ!」

「ぶはっ!」

綾乃の駄洒落に結衣は思わず笑ってしまう。すると、ここである二人の人物がここにやってきた。

「先輩、まだ倶楽部に……って智花ちゃんたちとその人たちは……」

「あら、文月学園の生徒ですわね」

生徒会メンバーである大室櫻子と古谷向日葵である。

「あ、櫻子ちゃんと向日葵ちゃん」

「ねえ、これ何が始まるの？」

「こんな大人数で何をするつもりなのですか？」

どういつことか京子は櫻子と向日葵にも説明する。

「あー、ヴァンガードですか！」

「この前、櫻子とやったあれですか」

「ええ！？ 大室さんと古谷さんもやってるの！？」

ヴァンガードを知らないのは綾乃ただ一人であった。それは置いておき、さっそく発売記念企画のことを京子が話す。

「さてさて、全員集まったところでヴァンガード第五弾『双剣覚醒』発売記念対決やっちゃうよー！」

「うおー！ 待ってたよ、きょーたん！」

「おー」

「それでどうするの？」

ミサキが京子にルールの方を聞いてみる。

「よく聞いてくれました、ミサキーヌ」

「変なあだ名つけるな！」

「まず、くじ引きを引いて、自分と同じ番号と一緒に人とヴァンガードファイトする。どちらのチームにはこの抽選BOXから一枚引いてもらうよ」

京子はいつもくじ引きで使っている赤い箱ともう一つ青い箱を取り出す。

「私たちはこの赤い箱を。文月学園のみんなはこの青い箱からくじ引きしてもらうよ」

「なるほどね」

「それで同じ番号の子とヴァンガードファイトをするよ。そして先に5勝したチームが勝利だよ」

「あ、あの……そこは私が司会するんじゃない……。一応、そのために呼ばれているんですよ。てか、京子ちゃんもこのバトルに参加しますよね……？」

店長が京子にそんなことを言うが、京子はお構いなしに進めてしまっ

「いいのいいの。シンシンにはあとでバトルの進行をしてもらうからさ」

「そ、そのあだ名で呼ばないでください……」

「じゃあ、引いてって」

このバトルに参加するみんな、箱からそれぞれ一枚ずつくじを引いていく。もちろん、京子も引いていた。そして、ようやく司会進行の座を京子からもらえた店長がしきる。

「みなさん、引きましたか？ それじゃあ、開いてください」

みななくじを開いていき、対戦相手と順番が決まった。

第一回戦 木下秀吉 VS 香椎愛莉

第二回戦 坂本雄二 VS 袴田ひなた

第三回戦 土屋康太 VS 三沢真帆

第四回戦 姫路瑞希 VS 永塚紗季

第五回戦 吉井明久 VS 湊智花

第六回戦 葛木カムイ VS 吉川ちなつ

第七回戦 戸倉ミサキ VS 歳納京子

第八回戦 櫛トシキ VS 赤座あかり

第九回戦 先導アイチ VS 船見結衣

「ワシは香椎との対戦じゃな」

「俺は袴田か。楽勝だぜ」

「よし、負けないぞ。ツツチーニ！」

「……………あだ名はムツツリーニだが」

「ふふ、私の相手は姫路さんですね」

「お手柔らかにお願いします。紗季ちゃん」

「僕は智花ちゃんとだね」

「吉井さんには負けませんよ」

「俺たち、チームQ4は後半ですね。お兄さん」

「うん」

「なんでよりもよって……………」

「よろしくね、ミサキーヌ」

「だから、変なあだ名で呼ぶな！」

「あ、あかりはなんか強そうな人と当たっちゃったよ……………」

「大丈夫よ、あかりちゃん。見た目だけだと思うよ」

「私は先導アイチ君と対戦か」

そんなみんなも燃える中、それ以外の人は全員見学である。三和と綾乃が会話を始める。

「あなたたちも見学なの？」

「ああ。それより、京子ちゃんたちって強いのか？」

「わ、私はやったことないし、それに京子たちがヴァンガードをやっているなんて初めて知ったし……」

「そっか」

「エミちゃんだっけ。アイチ君って強いの？」

「はい。アイチは今まで全国大会に行ったことありますので」

「全国……すごいねー」

「櫻子にはほど遠いですわね」

「なんだとー!」

いつの間にか櫻子と向日葵とエミはとても仲良くなっていた。森川と井崎は視線を向日葵に向いていた。

（おい、あれ見ろよ）

（なんだよ、森川……）

森川は向日葵に指差して小声で井崎と会話している。

（あの子がどうかしたのかよ？）

（よく見てみろよ。あの子、中一とか言っていたな。それにしても胸が大きくないか？）

森川が注目していたのは向日葵の胸であった。さすがにそれを聞いた井崎は呆れてしまう。

（お前な……）

（でも、すごくないか！？）

（はぁ……）

さすがに呆れる井崎。そして、千歳はあかりを応援していた。

「あかりちゃん。がんばってやー」

「あ、はい。千歳先輩」

あかりも応えて千歳に手を振る。それを見た三和は綾乃に聞いてみる。

「千歳ちゃんとあかりちゃんだっけ？ あの子二人仲良いな」

「あー、あの2人付き合ってるみたいですよ」

それを聞いた櫻子が三和に答える。三和は思わず驚いてしまう。

「ええ？ そうなのか？」

「わ、私だつて……京子と付き合つてるわよ……」

（そういえば、この子たちつて百合小説のキャラだっけな）

三和も納得したところで、店長が対戦ルールと賞品が披露される。

「では、ルールはチーム戦。どちらかが先に5勝した方が勝利です。なお、勝ったチームには、大会でもらえる全種類のPRカードが贈呈されます」

「おおおお！ パープルたん、かわええー！」

「京子、あれもう10枚持つてるんじゃないのか？」

「何枚あれば私はそれで幸せだよー」

「まったく、京子は……」

京子の言うパープルたんとはPR第三弾のカードでなかなか手に入らないパープル・トラپیージストである。京子は何度も参加してもうすでに10枚もある。

「それでは、第一回戦の方は前に出てください」

さっそく第一回戦でヴァンガードファイトする秀吉と愛莉はデー

ブルの前に出る。

「よろしく頼むぞ、香椎」

「よろしく願いします」

2人はファーストヴァンガードを前に置き、デッキをシャッフルし、山札から5枚引き、引き直しをした後でじゃんけんをしてから対戦がはじまる。

「それでは、レッツイメージ、レッツヴァンガード！」

「「スタンドアップ、ザ・ヴァンガード!!」」

次回、秀吉VS愛莉に続く。

出会い編（後書き）

次回、秀吉VS愛莉です。

2人がいったいどんなデツキを使うかお楽しみに

第一回戦 木下秀吉VS香椎愛莉（前書き）

第一回戦の始まりです。

第一回戦 木下秀吉VS香椎愛莉

ファーストヴァンガードを表に反し、秀吉と愛莉のファーストヴァンガードは秀吉はロゼンジ・メイガスで愛莉はドラゴンエッグであつた。

「オラクルシンクタンクにたちかぜや」

「えっと、それは何……？」

「クランだよ」

「くらん？」

「ユニットの所属している部隊ごと」

「要するに種族をあらわしているってことね」

「そついうこと。クランにはいろいろとあるけれど、まずは対戦を見て説明してやるよ」

綾乃は三和にクランを教わり、秀吉と愛莉のファイトを見る。

「ワシのターン、ドロー。オラクルガーディアン・ジェミニにライドじゃ」

秀吉はロゼンジ・メイガスからジェミニにライドし、ロゼンジ・メイガスをリアガードサークルに移動させてからターンを終える。それを見た綾乃はまた三和に聞き出す。

「ライドって何？」

「ヴァンガードとグレードが同じ、もしくは1つ上のグレードを持つユニットを手札からヴァンガードの上に1枚重ねることで、ライドフェイズに行われ、1ターンに1回しか行えないんだよ」

「つまり、ロゼンジ・メイガスは0だから1であるあのなんとかジエミニでライドできるってことね」

「そうそう」

「私のターン、ドロー。ソニック・ノアにライド！ ドラゴン・エツグはリアガードサークルに移動します」

「リアガード……？」

「ヴァンガードと共に戦うユニットで、前列の左右に1体ずつと、後列の左右・中央に1体ずつ、計5体まで登場できるんだ」

「なるほど……」

綾乃が納得しているところで愛莉が攻撃に入る。

「ドラゴン・エツグのブーストでソニック・ノアでオラクルガーデイアン・ジエミニにアタック！」

「ノーガードじゃ」

「トリガーチェック、トリガーはなしです」

アタックがヒットし、秀吉にダメージ一枚のる。

「なんか、いろいろ出てきたわね。ブーストにトリガー……」

綾乃も真剣にヴァンガードファイトを見ながらヴァンガードを知っていく。

「私のターンは終了です」

「ワシのターンじゃな。ドロ。オラクルガーディアン・ワイズマンにライドじゃ！そして、プロミス・ドーターをコールじゃ」

ワイズマンにライドされた後、プロミス・ドーターをコールする。そして攻撃に入る。

「ワイズマンでソニック・ノアにアタックじゃ」

「ノーガードです」

「トリガーチェック、ドロートリガーじゃ。+5000はプロミス・ドーターにそしてカードを一枚ドロじゃ」

カードを一枚引くと、すかさずプロミス・ドーターで攻撃に入る。

「ロゼンジ・メイガスのブースト、プロミス・ドーターでアタックじゃ。さらに、ロゼンジの効果で+3000じゃ」

「ノーガードです」

プロミス・ドーターの攻撃がヒットし、愛莉のダメージはこれで2となる。

「トリガーってカードを一枚引く効果なの？」

「せや。他にもダメージをプラスするクリティカル・トリガーやダメージ回復のヒール・トリガーに再びスタンドできるスタンド・トリガーがあるんや」

「4種類ね」

「ワシのターンは終了じゃ。終了時、ロゼンジ・メイガスは山札に戻すぞ」

「私のターン、スタンド&ドロ。餓竜メガレックスにライドします。さらに砲撃竜キャノンギアをコールします。効果でドラゴン・エッグを退却させます」

「退却？」

「敵ユニットの攻撃や能力でリアガードが倒されることや。倒されるとドロップゾーンに置かれるんや」

「じゃあ、あの効果ダメなんじゃ……」

ドラゴン・エッグを退却させるとすかさず効果を使う。

「ドラゴン・エッグのカウンター・ブラストでドロップゾーンから手札に加えます」

ドラゴン・エッグの効果でドラゴン・エッグを手札に加える。

「手札に加えた」

「それがたちかぜの戦い方や」

「よくわからないわ……」

そんな秀吉と愛莉のファイトを見て京子たちは……

「あの子、強いなー」

「そりゃあ、オラクルだからな」

「でも、愛莉ちゃんも負けてないよ」

「そうですよ、ここからが本番ですよ」

「アイリーン、がんばれー！」

みんなに応援されながら、愛莉の攻撃が入る。

「メガレックスでワイズマンにアタックします」

「ノーガードじゃ」

「トリガーチェック、ヒールトリガー。パワーはキャノンギアに、
そしてダメージ回復します」

「ダメージチェック。トリガーはなしじゃ」

「キャノンギアでワイズマンにアタックします！」

キャノンギアの攻撃でヒットしようとしていたが……

「オラクルガーディアン・ニケでガードじゃ」

ガードされ、攻撃は通らなかった。

「ターン終了です」

「ワシのターン、スタンド&ドローじゃ。CEOアマテラスにライドじゃー！」

CEOアマテラスにライドすると綾乃は思わず見惚れてしまう。

「あ、あんなユニットがいるなんて……」

「かわいいですね」

「ええ」

綾乃の会話にエミが加わる。すると、エミはさらに詳しく話す。

「オラクルはミサキさんも使っているんですよ」

「ミサキさん……あの髪の長い人ね。強いのか？」

「はい」

綾乃とエミの会話の中、秀吉と愛莉のファイトは続く。

「アマテラスの効果で、山札上のカードをソウルに置き、山札の一番上をチェックし、上か下に置くのじゃ。これはこのままじゃ。そして、サイレント・トムにオラクルガーディアン・ジェミニ、お天気お姉さんみるくをコールじゃ」

次々とリアガードをコールしていき、攻撃に入る。

「みるくのブースト、アマテラスでヴァンガードにアタックじゃ。さらに、ワシの手札は2枚。ドライブチェックで手札が4枚になるため、アマテラスの効果で+4000し、さらにみるくの効果で+4000されるのでアマテラスのパワーは24000じゃ」

「に、24000……！」

「やっぱアマテラス強いな……」

「ノーガードです」

「ツインドライブ。ファーストチェック、クリティカル・トリガーじゃ！クリティカル効果はアマテラスにパワーはサイレント・トムに。セカンドチェック、トリガーはなしじゃ」

アタックがヒットし、愛莉のダメージはこれで3となる。秀吉の猛攻はまだ終わらなかった。

「ジェミニのブースト、サイレント・トムでヴァンガードにアタックじゃ！」

「ノーガードです」

これで愛莉のダメージは4になる。

「これでダメージ4……。でも、これで攻撃は……」

「いや、まだプロミスがいる」

「プロミス・ドーターのアタックじゃ。プロミス・ドーターの効果で手札からオラクルシンクタンクを一枚捨て、パワー+5000じや」

パワーが上がり、これでパワーが14000となる。

「キャノンギアでガードします」

ガーディアンを呼び、ガードをする。攻撃は通らなかった。

「ターンエンドじゃ」

「危ないな……」

「愛莉ちゃんのダメージはこれで4。次で決めないと確実に……」

「でも、まだわかりませんよ」

愛莉のターンとなる。

「私のターン、スタンド&ドロ。暴君デスレックスにライドします！ さらに餓竜ギガレックス、スカイプテラ、サベイジ・ウォー

リア、ソニック・ノアをコールします」

勝負を決めたいところ。愛莉は一気にリアガードをコールする。

「行きます！ スカイプテラのブースト、キャノンギアでヴァンガードにアタック！」

「サイキック・バードでガードじゃ」

「うう……。ソニック・ノアのブースト、デスレックスでアタック！」

「ノーガードじゃ」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック……クリティカル・トリガー！ クリティカル＋1はデスレックスにそしてパワーはギガレックスに」

デスレックスの攻撃で秀吉のダメージは4にしかし、ギガレックスの攻撃だけではダメージ5のため、届かず。

結局、サイレント・トムに攻撃しただけで終わってしまった。

「ワシのターンじゃな。スタンド＆ドロ。アマテラスの効果でソウルにおいてから山札の一番上を確認じゃ。これは下に置く。ワイズマンをコールしてから、アマテラスでアタックじゃ」

「ノーガードです……」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック……ドロトリガーじゃ。効果はプロミス・ドーターに。そして一枚ドロ

ーじゃ」

アマテラスの攻撃により、愛莉のダメージは5になる。そしてプロミス・ドーターの攻撃で結局、受けてしまい、負けてしまったのだった。

「ありがとうございました」

「うむ、こっちこそじゃ。いいファイトであつたぞ」

お互い握手を交わし、それぞれのチームに戻っていく。

「やったね、秀吉」

「すごいよ、もうオラクルを使いこなすなんて」

「うむ、これも戸倉のおかげじゃ」

「私は別に何もやってないって」

そして、愛莉たちの方は……

「う、ごめんなさい……」

「いいよ。まだ一戦目だし」

「そうだよ。アイリーン、元気出して」

「次はひなたちゃんだね」

「ふっふっふ、ひなたちゃんが秘密兵器の一つだとはアキリンチー
ムはいまだに知らない……」

「京子ちゃん、怖いよ……」

次は第二回戦、雄二VSひなたである。

「袴田、手加減はしないぜ」

「おー。ひな、まけないよー」

お互い、デッキをシャッフルし、5枚カードを引き、準備が整ったところでバトルに入る。

「2人とも、準備できましたか？」

「おう」

「おー」

「それでは、第二回戦、坂本雄二君VS袴田ひなたちゃんのバトル、スタートです」

「「スタンドアップ、ザ・ヴァンガード！」」

この瞬間、ひなたのデッキがまさかのあのデッキだとはだれも予想していなかった……。

第一回戦 木下秀吉VS香椎愛莉（後書き）

次回は雄二VSひなたです。ただ、ひなたのデッキはみなさんとはまったく予想していたのと違うデッキを使います（笑）

第二回戦 坂本雄二VS袴田ひなた（前書き）

前回は少しわかりずらいところもありましたが、今回はちょっと改善します。ヴァンガードのプレイするところを書くのを初めてなもので……（汗）

第二回戦 坂本雄二VS袴田ひなた

第二回戦、雄二VSひなたのヴァンガードファイトが始まった。すると、ひなたのファーストヴァンガードはあれだった……。

「そ、それは……!」

「フルバウだよー」

フルバウと言えば、シャドウパラディン。ひなたの使用デッキはシャドウパラディンデッキだった。それを見たアイチやミサキたちは驚いてしまう。

「シャドウパラディン!？」

「なんであんな小さい子が……」

「ふっふっふ、こんなこともあるつかと、私がひなたちゃんにデッキを貸してやったのだー!」

「まったく」

智花がどうして京子がひなたにデッキを貸したのかアイチたちに説明する。

「ひなたはこの日までにデッキがなかなか完成できなくて、それで京子さんが作ったシャドウパラディンデッキを貸したんです」

「アイツが……」

「歳納京子、恐ろしいやつだぜ……」

アイチたちが驚く中、雄二はひるまず、ファイトに集中する。

「ふん、いくらシャドウパラディンでも相手は袴田だ！ 俺は負けねえぜ！」

そんな雄二のファーストヴァンガードはりザードソルジャー・コンロー。かげろうデッキである。最初は雄二のターンからとなる。

「俺のターン、ドロー！ 鎧の化身バーにライド！ コンローはりアガードサークルに移動してターン終了だ」

「ひなのターン、ドロー。ブラスター・ジャベリンにライド。フルバウの効果でブラスター・ジャベリンにライドしたとき、デッキからブラスター・ダークを手札に加えるよ」

デッキからブラスター・ダークを手札に加え、デッキをシャッフルする。

「やはり来たか、ブラスター・ダーク……！」

「そして、フルバウがソウルにいるから、ブラスター・ジャベリンのパワーは常に+2000でパワー8000。いくよ、ブラスター・ジャベリンでバーに攻撃」

鎧の化身バー 8000 VS ブラスター・ジャベリン 8000

「ノーガードだ」

「おー。ドライブチェック、クリティカルトリガー。効果は全部ブラスター・ジャベリンに」

これでブラスター・ジャベリンのパワーは13000にそしてクリティカルは2になり、バーに攻撃がヒットし、雄二のダメージはこれで2となる。

「しよっぱなからクリティカルを引かれるとは思いませんでしたぜ……」

「ひなのターンはこれで終わりだよ」

「よし、俺のターン、ドロー！ ベリコウステイドラゴンにライドだ！ ここでコンローの効果を使うぜ。カウンターブラスト。コンローを退却し、デッキからグレード1以下のかげろうを手札に加える。俺はワイバーンガード・バリイを加える」

ワイバーンガード・バリイを手札に加えたら、デッキをシャッフルし、次のステップに入る。

「さらに、俺はバーをベリコウステイドラゴンの後列にコールし、左にはドラゴンナイト・ネハーレンをコールする。行くぜ！ バーのブースト、ベリコウステイドラゴンで攻撃だ！」

ベリコウステイドラゴン 17000 VS ブラスター・ジャベリン 8000

「おー。ここはつけるよ」

「ドライブチェック！ トリガーはなしだ」

攻撃がヒットし、ひなたのダメージは1となる。

「ここでベリコウスティドラゴンの効果を使わせてもらっぜ。自分のダメージゾーンの1枚を表にする。そして、ネハーレンでブラスター・ジャベリンに攻撃だ！」

ドラゴンナイトネハーレン 10000 VS ブラスター・ジャベリン 8000

「おー。これもつける」

この攻撃も受けて、ひなたのダメージはこれで2となる。これで雄二と並ぶ。

「俺のターンは終了だ」

「ひなのターン、スタンド&ドロー。いくよ、ブラスター・ダークにライド」

ブラスター・ダークにライドする。

「ブラスター・ダーク……！」

「やはり来たね」

アイチや明久たちも見守る中、綾乃はどうしてシャドウパラディンであんなに真剣なのか不思議に思う。

「な、なんでみんな真剣なのよ。それにシャドウパラディンってどんな効果を持つてるの?」

「綾乃ちゃん、見ればわかるで」

「ああ、ちゃんと見ておきな」

「えっと……」

その後も、ひなたのターンは続いていく。

「さらに、髑髏の魔女ネヴァンをコール。ネヴァンの効果で手札を一枚捨て、山札から2枚ドロー。そして暗闇の騎士ルゴス、ネヴァンの後列に黒の賢者カロンをコール。ブラスター・ダークでヴァンガードに攻撃」

ブラスター・ダーク 10000 VS ベリコウスティドラゴン 9000

「ノーガードだ」

「ドライブチェック、トリガーはなしだよ」

攻撃がヒットし、雄二のダメージは3となる。

「さらに、ルゴスでヴァンガードに攻撃」

暗闇の騎士ルゴス 10000 VS ベリコウスティドラゴン 9000

「ノーガードだ」

攻撃を受け、ダメージは4になる。すると、ドロートリガーが来る。

「よし、ドロートリガーだ。カードを一枚引き、パワーはベリコウステイドラゴンに」

ベリコウステイドラゴンのパワーは14000になる。これではネヴァンの攻撃は通らない。そのため、狙いをネハーレンに変える。

「おー。なら、カロンのブースト、ネヴァンでネハーレンに攻撃」

ドラゴンナイトネハーレン 10000 VS 髑髏の魔女ネヴァン 11000

「それはアイアンテイル・ドラゴンでガードだ」

攻撃は通らなかった。

「おー。ひなのターンは終わり」

「俺のターン、スタンド&ドロー！ 行くぜ、ドラゴニック・ウオーターフォウルにライドだ！」

ドラゴニック・ウオーターフォウルにライドする。

「さらに、ネハーレンの後列にバーをコールし、ここから攻撃だ。バーのブースト、ドラゴニック・ウオーターフォウルでヴァンガー

ドに攻撃！ この時、ウォーターフォウルの効果で+3000で21000だ！」

ドラゴニック・ウォーターフォウル 21000 VS ブラスター・ダーク 10000

「おー。受けるよ」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、トリガーはなしだ」

攻撃はヒットし、ひなたのダメージは3になる。

「ネハーレンでヴァンガードに攻撃！」

ドラゴンナイトネハーレン 10000 VS ブラスター・ダーク 10000

「おー。ネヴァンでインターセプト」

ネヴァンのインターセプトによるガードで防がれる。

「これでターン終了だ」

「おー。ひなのターン、スタンド&ドロー。ファントム・ブラスタ
ー・ドラゴンにライド」

ファントム・ブラスター・ドラゴンにライドする。それを見て、
誰もが息をのむ。

「来たね」

「うん」

「だ、だからなんでそんなに真剣になるのよ」

ただ一人、ヴァンガードを知らない綾乃はついていけず、ひなたのターンは続く。

「ネヴァンをコールして、効果を発動。手札一枚捨てて、カードを2枚ドロ」

「な、なんでファントム・ブラスターの効果を使わないの？」

「おー。まだまだチャージするの。ファントム・ブラスター・ドラゴンの後列にカロンをコールして、カロンのブースト、ファントム・ブラスター・ドラゴンでヴァンガードに攻撃」

ファントム・ブラスター・ドラゴン 19000 VS ドラゴ
ニック・ウォーターフォウル 10000

「残念だが、バリーで完全防御！ 手札のかげろを一枚捨てる」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、おー。クリティカルトリガー。効果はすべてルゴスに」

バリーによる完全防御で防がれるが、攻撃は続く。

「ルゴスでヴァンガードにアタック」

暗黒の騎士ルゴス 15000 VS ドラゴニック・ウォー
ターフォウル 10000

「これ受けたらまずいな、槍の化身ターでガードだ」

ターで防がれる。その後、ネヴァンでリアガードのネハーレンに
攻撃し、ヒットする。

「ひなのターンは終わり」

「よっしゃ、俺のターン、スタンド&ドロー！ ここで決めさせて
もらうぜ、バーの前列にドラゴニック・エクスキューショナー、そ
してもう一体のエクスキューショナーもコールだ！ 準備は整った
ぜ！ バーのブースト、ウォーターフォウルでヴァンガードに攻撃
！ さらに効果を使い、手札にあるグレード3のかげろうを一枚捨
て、パワー10000アップだ！ これでパワーは31000だ！」

ドラゴニック・ウォーターフォウル 31000 VS ファン
トム・ブラスター・ドラゴン 11000

「うわ……雄二ってば小さい子相手に容赦なしだよ」

「權君に教わってるからね」

「グレード3ばかりだけど、デッキ事故ってたのか？」

「いいぞー、もっとグレード3出してー」

「森川……」

「おー。受けるよ」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、よし！クリティカルトリガー！クリティカルは当然、ウォーターフォウルに。そしてパワーは左前列のエクスキューショナーに！」

攻撃がヒットし、ひなたのダメージはこれで5になる。

「バーのブースト、エクスキューショナーでヴァンガードに攻撃だ！」

ドラゴニック・エクスキューショナー 25000 VS ファ
ントム・ブラスター・ドラゴン 11000

「おー。マクリールで完全防御」

「な、なにに！？」

あっけなく、攻撃を防がれた。その後もエクスキューショナーでルゴスを攻撃するも、それはネヴァンのインターセプトで止められた。

「た、ターン終了だ……」

「雄……」

「子供相手にムキになるから」

「おー。ひなのターン、スタンド&ドロー。ひなの切札」

「え！？」

その言葉にアイチたちは驚く。

「ファントム・ブラスター・ドラゴンが切札じゃないの……？」

「おー。こっちだよー。ファントム・ブラスター・オーバーロードにライド」

ファントム・ブラスター・オーバーロードにライドする。それを見て誰もが驚く。

「ふあ、ファントム・ブラスター・オーバーロードまで持つてるの……！？」

「はっはっはー！　これがひなたちゃんの力よ！」

「あれ京子が作ったデツキだろ」

「ファントム・ブラスター・オーバーロードの効果で手札のファントム・ブラスター・オーバーロードを一枚捨て、これでクリティカル＋1そしてパワー10000アップだよー」

ファントム・ブラスター・オーバーロードのパワーはソウルにファントム・ブラスター・ドラゴンがあるので＋2000、そして、効果で＋10000でパワーは23000となる。

「いくよー。カロンのブースト、ファントム・ブラスター・オーバーロードでヴァンガードに攻撃」

ファントム・ブラスター・オーバーロード 31000 VS
ドラゴニック・ウォーターフォウル 10000

「くそ……防げねえ……」

その後のツインドライブはトリガーはなかったが、攻撃はヒットし、雄二のダメージは6となり、勝負はひなたの勝利となる。

「勝者、袴田ひなたちゃん」

「おー。ひな勝ったー」

「負けた……」

2人ともそれぞれのチームに戻っていく。

「やったねー、ひなたちゃん」

「おー。きょーこおねーちゃん、デッキありがとー」

「うん、どういたしまして」

ひなたは嬉しそうに京子に使ったデッキを返す。

「しかし、シャドウパラディンなんてよく集められたな」

「いやー、私の努力の結果ですよー。結衣さん」

「はいはい」

そして、雄二は……

「すまん……」

「子供相手にムキになるからだよ」

「んなこと言われてもアイツがシャドウパラディン使ってくるなんて聞いてねえぞ」

「まったくじゃな」

「次は……」

「……………（スック）」

「ムツツリーニだね」

「よし、負けないぞー」

第三回戦のムツツリーニと真帆が前に出る。お互い、デッキをシヤッフルし、5枚カードを引き、準備が整ったところでバトルに入る。

「2人とも、準備できましたか？」

「……………（コク）」

「いつでもオツケーだよ」

「それでは、第三回戦、土屋康太君VS三沢真帆ちゃんのバトル、

スタートです」

「（……）スタンダップ、ザ・ヴァンガード！」

第二回戦 坂本雄二VS袴田ひなた（後書き）

今回はうまくかけてるかちょっと心配です……（汗）

バカとイメージと先導者は明日更新します。

第三回戦 土屋康太VS三沢真帆（前書き）

今回初となるむらくもが登場します。

むらくもはWikiで効果を見て書いています。

第三回戦 土屋康太VS三沢真帆

真帆のファーストヴァンガードはメカ・トレーナー。ムッツリーニは忍獣イビルフェレットである。

「む、初めて見るユニットだな」

「土屋さんはむらくもか」

「ぬばたまと対する克蘭だったね」

「真帆ちゃんはスパイクブラザーズか……」

「いったいどんなファイトになるんだろ……」

さっそく、ムッツリーニのターンで静寂の忍鬼シジママルにライドし、イビルフェレットは右後列のリアガードサークルに移動させ、ターンを終了させた。

「よし、アタシのターン！ ワンダー・ボーイにまほまほライド！」

ワンダー・ボーイにライドさせ、メカ・トレーナーを左後列のリアガードサークルに移動させてから、ヴァンガードに攻撃する。

トリガーはなしだが、ムッツリーニのダメージは1となる。

「……………俺のターン、忍竜カースドブレスにライド。イビルフェレットの効果で山札の下に置き、手札から双剣士MUSASHIを左前列にコールし、さらにシジママルをMUSASHIの後列にコール」

「いきなりグレード3を……」

「……カーストブレスでヴァンガードにアタック」

「ここはノーガード」

「……トリガーチェック。トリガーはなし」

「ダメージチェック、クリティカルトリガー。効果は全部ワンダー・ボーイに」

「……カーストブレスの効果、ヴァンガードにヒットした時、山札の上から5枚めくり、その中から隠密魔竜マンダラロードがあれば手札に加える。あった」

マンダラロードがあつたので手札に加える。

「……シジママルのブースト、MUSASHIでアタック。効果でMUSASHIのパワーは+3000」

真帆にとっては初めて対戦するむらくもに戸惑うばかり。それでもバトルスタイルを崩すことなかった。

「ジャイロプリンガーでガード」

ガードされ、攻撃は通らず。真帆のダメージは1でムツツリー二のターンは終了した。

「アタシのターン、スタンド&ドロ！ 至宝ブラックパンサーに

まほまほライド！ さらにハイスピードブラッキーをメカ・トレーナーの前列にコール！ ブラックパンサーでヴァンガードにアタック！」

「……………ノーガード」

「ドライブチェック、クリティカルトリガー！ クリティカルはパンサーに、パワーはハイスピードブラッキーに」

「……………ダメージチェック、ドロートリガー。1枚ドロして、パワーはカースドブレスに」

「なら、メカ・トレーナーのブースト、ハイスピードブラッキーでカースドブレスにアタック！」

「……………ノーガード」

攻撃を受け、ムッツリーニのダメージは3になる。

「ターン終了」

「……………俺のターン、隠密魔竜マンダラロードにライド」

先ほど手札に加えたマンダラロードにライドする。

「むむ、来たな。マンダラロード」

（真帆ちゃん気を付けて。マンダラロードは……………）

結衣が心配する中、ムッツリーニはリアガードをコールする。

「…………シジママルの前列にMUSASHI、マンダラロードの後列にシジママル、忍獣ブラッディミストを右前列にコール」

さっそく、バトルに入る。

「…………シジママルのブースト、マンダラロードでヴァンガードにアタック」

「ノーガードだよん」

「…………ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、クリティカルトリガー。クリティカルはマンダラロードに、パワーはMUSASHIに」

「ダメージチェック、1枚目、2枚目。ドロートリガー。1枚ドロし、パワーはパンサーに」

その後、MUSASHI、ブラッディミストで攻撃が続き、真帆のダメージは4となる。

「…………ターン終了」

「アタシのターン、スタンド&ドロ。ツッチーニ、このターンで終わらせてもらっよ！ 將軍ザイフリートにまほまほライド！」

ザイフリートにライドされる。

「さらに、メカ・トレーナーのカウンターブラスト！ 山札からグレード1以下のスパイクブラザーズを1枚手札に加える。ダッドリ

ー・ダンを加えそのままザイフリートの後列にコール。さらに、ブラッキーの後列にワンダー・ボーイをコール！ ワンダー・ボーイのブースト、ブラッキーでヴァンガードにアタック！ さらに効果を使い、パワー+5000！」

22000という高いパワーにたいしてムツツリーニはノーガードし、攻撃を受ける。ブラッキーは効果で山札に戻る。

「よし、ダッドリー・ダンの効果！ カウンター・ブラスト！ さらに、手札1枚をソウルに置き、ブーストした時、山札からスパイクブラザーズをコールする！ ジャガーノート・マキシマムをワンダー・ボーイの前列にコール！ そして、ダッドリー・ダンのブースト、ザイフリートでアタック！」

「……………忍獣リープスミラージュで完全防御」

「ぐぬぬ……………」

ツインドライブの結果、クリティカルトリガーが出て、効果は全部ジャガーノート・マキシマムに。

「これで終わりだよ！ ワンダー・ボーイのブースト、ジャガーノート・マキシマムでアタック！ さらに効果を使い、パワー+5000！」

ジャガーノート・マキシマムのパワーはトリガー、効果、ブーストで29000に。しかし、ムツツリーニは表情を変えず、冷静だった。

「……………マンダラロードの効果、ガード開始時にカウンター・ブ

ラストで手札のマンダラロードを捨て、アタックしているユニットを選び、パワー・10000」

「ええ!？」

「…………ミダレエッジでガードし、ブラッディミストのインターセプト」

効果によるパワーダウン、さらなるガードで攻撃が防がれてしま
う。

「ええー!？ そんなのありなの!？」

ジャガーノートは山札に戻してから真帆のターンは終了する。

「…………俺のターン。MUSASHIを右前列、ミダレエッジをMUSASHIの後列にコール。バトル。ミダレエッジのブースト、MUSASHIで攻撃」

「の、ノーガード…………」

攻撃は受け、ダメージトリガーはなかった。

「…………シジママルのブースト、マンダラロードでヴァンガードにアタック」

「そ、それは…………サイレンス・ジョーカーとソニック・ブレイカーでガード!」

真帆の手札も4枚になり、ガードしていく。

「……………ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、スタンドトリガー。右前列のMUSASHIをスタンドさせ、+5000」

「うっ……」

手札は4枚だが、真帆の焦りの顔が出てきてしまっている。ムツツリー二の攻撃は続いていく。

「シジママルのブースト、MUSASHIでアタック」

「の、ノーガード……」

「ええ！？ どうして……！？」

攻撃を受け、ダメージは6枚目。勝ったのはムツツリー二だった。

「勝者、土屋康太君」

「……………（ガッツ）」

「む、無理だよ……」

真帆の手札を見てみれば、全部がグレード1。これでは防ぎようがなかったようだ。両社はチームに戻っていく。

「いめんね、ゆいちゃん、きょーたん……」

「いいよ。真帆ちゃんも頑張ったよ」

「そうだよ」

「次は私ね。真帆の分も頑張ってくるから」

そしてムツツリー二は

「やったね、ムツツリー二」

「……………（コク）」

「それにしても、僕たちが後半で相手する娯楽部だっけ。なんだかあの子たちよりも強い気が……」

「アイチ……？」

「では、次は私ですね」

「瑞希、頑張つてね」

「はい」

さつそく瑞希と紗季は前に出て、ファイトの準備をしている。F Vを置き、デッキをシャッフルしてからデッキから5枚手札に加え、引き直しをした後、バトルに入る。

「2人とも準備はできましたか？」

「「はい」」

「それでは、第四回戦、姫路瑞希さんVS永塚紗季ちゃんのバトル、スタートです」

「「スタンドアップ、ザ・ヴァンガード！」」

第三回戦 土屋康太VS三沢真帆（後書き）

むらくもの立ち回りはこんな感じで書き上げました。

自分の考えたむらくもで書いていますのでむらくもは人それぞれか
もです。

第四回戦 姫路瑞希VS永塚紗季（前書き）

いつになったらマジエスティの効果公開するんだ……（汗）

第四回戦 姫路瑞希VS永塚紗季

瑞希と紗季のファイトが始まり、それぞれのファーストヴァンガードは瑞希はヴァーミリオン・ゲートキーパー、紗季は冥界の支配人である。

「ダークイレギュラーズにペイルムーンか……」

「同じ国家同士だね」

最初のターンは紗季からであった。

「私のターン、スカル・ジャグラーにライドします。冥界の支配人、スカル・ジャグラーの効果で山札から一枚ずつソウルチャージして、ターン終了です」

最初から2枚ソウルチャージし、紗季のターンは終了する。

「では、私のターン、誘惑のサキュバスにライドします。こちらもそれぞれの効果でソウルチャージし、バトルに入ります。サキュバスでジャグラーにアタックします」

「ノーガードです」

「トリガーチェック、トリガーはなしです」

「ダメージチェック、トリガーはなし」

「ターン終了です」

瑞希も紗季と同じく、ソウルチャージし、ヴァンガードにアタックしてターン終了した。

「なんか、動きが同じね……」

「ダークイレギュラーズもペイルムーンもソウルチャージが重要なクランやからな」

「私のターン、エレファント・ジャグラーにライドします。さらにラーク・ピジョン、バーキングケルベロスをコール。エレファント・ジャグラーの効果、リアガードにコールしたペイルムーン1体に着き、ソウルチャージ」

紗季はさらにソウルをため、これでソウルは6枚となった。

「さらに、パープル・トラピーストをコールします」

「来たー！ パープルたん来たー！」

「本当に京子はパープルが好きなんだな」

京子が興奮する中、エレファント・ジャグラーの効果でソウルチャージをした後、紗季はパープルの効果を使う。

「パープル・トラピーストの効果で、ラーク・ピジョンをソウルに置き、ソウルからナイトメアドールありすをパープルの前列にコールします」

パープルの効果でいきなりグレード3のナイトメアドールありす

がリアガードにスペリオルコールされた。

ここでありすがリアガードにコールされたのでエレファント・ジャグラの効果で1枚ソウルチャージする。

「ここから攻撃に入ります。バーキング・ケルベロスでヴァンガードにアタック！」

「ノーガードです」

ケルベロスの攻撃を受け、瑞希のダメージは1となる。

「エレファント・ジャグラでアタック！」

「ノーガードです」

「トリガーチェック、ドロートリガー。パワーはありすに、そして1枚ドロー」

瑞希のダメージはこれで2となる。

「パープル・トラピージストのブースト、ありすでアタック！」

ありすのパワーは21000。防ぐには15000は必要だが……。

「ヒステリック・シャリー、冥界のパペットマスターでガードします」

ガードして、ダメージは2にとどまった。

「ターン終了です」

いきなり押され気味の瑞希を明久たちは心配していた。

「大丈夫かな、瑞希……」

「うん……」

「ソウルはすでに8枚な上、パープル・トラピージストは厄介よ」

「なんだかアイツも鬼強じゃねえか」

アイチやカムイも驚いている中、瑞希も負けてはいなかった。

「私のスタンド&ドロー。退廃のサキュバスにライドします。さらに、ヴェアヴォルフ・ズイーガー、その後列にプリズナー・ビーストをコールします。サキュバスの効果でソウルチャージします」

同じく、ソウルチャージはするものの、紗季のように多くはソウルチャージはできなかった。そして、攻撃に入る。

「いきます。プリズナーのブースト、ズイーガーでヴァンガードにアタックします」

「フープ・マジシャンでガードします」

「退廃のサキュバスでヴァンガードにアタックします」

「ノーガードです」

「トリガーチェック、トリガーはなしです」

紗季のダメージはこれで2となる。

「ターンは終了です」

瑞希のターンが終了する。これを見た綾乃はまったくついていけなかった。

「うーん、紗季ちゃんも姫路さんもなんであんなにソウルチャージを……」

「それがダークイレギュラーズとペイルムーンの特徴だからさ」

「特徴ねー」

三和に教えられるも、ヴァンガードのことは知らない綾乃にはちんぷんかんぷんであった。そして、紗季のターンに入る。

「私のスタンド&ドロー。宵闇の奇術師ロベールにライドします。ロベールの効果でソウルチャージし、山札の一番上を確認、これはそのままに」

山札の一番上を確認した後、リアガードをコールしていく。

「パープル・トラپیージストをコールします」

「2枚目のパープルたん来た　！」

「お前はおとなしくしろ」

「もう1体のパープルをソウルに置き、ソウルからミッドナイト・バニーをロベールの後列にコールします。パープルのブースト、バレーキング・ケルベロスでヴァンガードにアタック！」

「ノーガードです」

瑞希のダメージは3となる。

「ミッドナイト・バニーのブースト、ロベールでヴァンガードにアタックします！」

「うう……」

さすがのこの攻撃を受けるとダメージは4となる。さらにバニーの効果でスペリオルコールされるので攻撃を防ぐことに。

「悪魔の国のダーククイーンでガードします」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、トリガーはなしです」

ここでトリガーが引かれれば攻撃を通ってしまったところだろう。だが、まだありすがいる。

「ありすでアタック！」

ありすの効果も攻撃が通ればスペリオルコールされる。だが、ここは通すことに。

「ノーガードです」

攻撃が通り、ドロートリガーがでて1枚引き、ダメージは4となる。ここでありすの効果が発動される。

「ありすの効果。ありすをソウルに置き、ソウルからスペリオルコールすることができる。私はパープル・トラپیジストをコールします。さらにパープルの効果で、もう1体のパープルをソウルに置き、ソウルからありすをコールします」

再びありすがコールされる。

「パープルのブースト、ありすでヴァンガードにアタックします！」

「ヒステリック・シャリーでガードします」

防いだものの、ダメージと手札の消費は大きかった。

「なんだか、紗季ちゃん強いわね……」

「ペイルムーンの特徴を理解しきってとるわ」

「紗季ちゃん鬼強すぎだろ……」

ここで瑞希のターンに入る。

「私のスタンド&ドロー、私は……双翅の王ベルゼバブにライドします！」

ベルゼバブにライドするも、まだ紗季の有利に変わりはなかった。

「ベルゼバブでヴァンガードにアタックします！ 効果を使い、ズイーガーとプリズナーのパワーを+3000します」

「これはノーガードです」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、クリティカルトリガー！ クリティカルはベルゼバブにパワーはズイーガーに！」

しかし、与えるダメージは4。ズイーガーの攻撃でもダメージは5にとどまってしまふ。結局、ズイーガーの攻撃はケルベロスのインターセプト、お菓子なピエロ、レインボーマジシャンでガードされる。

「ターン終了です……」

「ふふ、この勝負、もらいましたよ。私のスタンド&ドロー！ ミストレス・ハリケーンにライドします！」

紗季はミストレス・ハリケーンにライドする。すかさず効果を使う。

「ミストレス・ハリケーンの効果、ソウルからペイルムーンをコールします。私はソウルからバーキング・ケルベロスをコール！ 行きます！ ケルベロスでヴァンガードにアタック！」

「ず、ズイーガーでインターセプトします」

「なら、ミッドナイト・バニーのブースト、ミストレス・ハリケーン

ンでヴァンガードにアタックします!」

「の、ノーガードです……」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、ゲツト! クリティカルトリガー!」

ここでクリティカルトリガーを引いた。瑞希のダメージは6となる。

「勝者、永塚紗季ちゃん」

「やった!」

「うう……」

勝負が終わり、お互い自分のチームに戻っていく。

「やったね、紗季ちゃん」

「サキー。やったなー」

「真帆の分も頑張ったわよ」

「これで2勝2敗だね」

「ここで1勝すれば3勝2敗……!」

「次は私ですね」

「智花ちゃん、頑張って」

「はい」

そして、瑞希は……

「ごめんなさい、明久君……」

「いいよ。瑞希も頑張ったんだし」

「それにしても、紗季ってやつ強い……」

「次は明久君だね。がんばって」

「うん、頑張ってくるよ」

明久と智花は前に出て、ファイトの準備をする。デッキをシャッフルし、5枚引いたら引き直しをして準備が整う。

「吉井さんこの勝負、負けません」

「それはこっちの台詞だよ、智花ちゃん」

「2人とも、準備はできましたか？」

「はい」

「それでは、第五回戦、吉井明久君VS湊智花ちゃんのバトル、スタートです」

「「スタンドアップ、ザ・ヴァンガード！」」

第四回戦 姫路瑞希VS永塚紗季（後書き）

次回のバトルが終わったらいよいよチームQ4VS倶楽部のバトルが始まります。

ただ、ペイルムーンの立ち回りがチートすぎてしまいました……（汗）

第五回戦 吉井明久VS湊智花（前書き）

いよいよ今週でヴァンガード第五弾の発売……！

第五回戦 吉井明久VS湊智花

明久と智花のファイトが始まり、明久のファーストヴァンガードはぶるうがる。智花は神鷹一拍子であった。

「智花ちゃんはオラクルかー」

「吉井さん、この勝負私が勝ちます!」

「ロゼンジじゃない……?」

「智花ちゃんはツクヨミ軸やな」

「ツクヨミ? なにそれ?」

綾乃がついていけない様子の中、明久のターンからスタートされる。

「僕のターン、湖の巫女リアンにライド。ぶるうがるはリアガードサークルに移動させ、リアンの効果でレスト、手札一枚を捨てカードを一枚引く。これで僕のターンは終了だよ」

「私のターン、神鷹一拍子の効果を使います。山札5枚見て、その中から三日月の女神ツクヨミがあればスペリオルライドできる……よし、5枚から三日月の女神ツクヨミにライドします。ツクヨミでリアンにアタック」

「ノーガード」

「トリガーチェック、クリティカルトリガー。すべての効果をツクヨミに」

ツクヨミの攻撃がヒットし、さらにクリティカルトリガーでダメージは2となる。

「ターン終了です」

「僕のターン、沈黙の騎士ギャラティンにライド。さらにハイドツグブリーダーアカネをコール。アカネの効果、山札からハイビーストをコールする。僕はといぶがるをコール。ぶるうがるのブースト、ギャラティンでヴァンガードにアタック！」

「ノーガードです」

「トリガーチェック、トリガーはなし」

智花のダメージは1となり、明久の攻撃は続く。

「といぶがるのブースト、アカネでヴァンガードにアタック」

「ノーガードです」

これを受けると、ドロートリガーが出る。

「ドロートリガー。パワーはツクヨミに、さらにカード1枚ドロします」

「僕のターンは終了」

「私のターン、ツクヨミの効果で山札5枚を確認します。半月の女神はありませんでした。手札からメイデン・オブ・ライブラにライドします」

「ふふ、半月は不発のようだね」

「さらにオラクルガーディアンレッドアイにダーク・キャットをコールします。ダーク・キャットの効果でお互いのプレイヤーはカードを1枚ドローします」

「じゃ、僕も引くね」

お互い、カードを1枚ドローすると、智花の攻撃に入る。

「ライブラでギャラティンにアタック！」

「ノーガード」

「トリガーチェック、トリガーはないです」

トリガーではないため、攻撃は通らなかった。

「ダーク・キャットのブースト、レッドアイでヴァンガードにアタック！」

「ノーガード」

攻撃はとおり、これでダメージは3になる。さらにレッドアイの効果により、ソウルチャージをして智花のターンは終了する。

「僕のターン、スタンド＆ドロー。僕は騎士王アルフレッドにライドするよー!」

騎士王アルフレッドにライドされる。

「あー、アルフレッドだー!」

「櫻子、あのユニット好きでしたわね」

「だって、私の切り札だもん! やっぱアルフレッドかつこいいなー」

「僕は爆炎の剣士バロミデスといぶがるをコール! 行くよ、アルフレッドでヴァンガードにアタック!」

「ノーガードです」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、トリガーはなし」

運の悪いことに、トリガーはなかった。それでも明久の攻撃はまだ続く。

「といぶがるのブースト、バロミデスでヴァンガードにアタック!」

「た、高い……。ノーガードです」

ダメージは4枚目になる。

「といぶがるのブースト、アカネでアタック!」

「バトルシスターじんじゃーでガードします！」

「ターン終了」

「私のターン、行きます！ 花占いの女神サクヤにライドします！」

意外にも、満月の女神ツクヨミではなくサクヤであった。

「さ、サクヤ！？」

「満月じゃないの……？」

「ツクヨミはもともとデッキ事故防止用に入っているだけです。では、行きます！ サクヤの効果で自分のすべてのリアガードを手札に加えます！ そして、再びレッドアイとダーク・キャットをコールします！」

再びダーク・キャットの効果でお互い1枚カードをドローすると、智花はさらにリアガードを増やしていく。

「さらにメテオブレイク・ウィザード、オラクルガーディアンジェミニ、三日月の女神ツクヨミをコールします」

これで智花のリアガードは5体となる。ここで攻撃が始まる。

「行きます、ツクヨミのブースト、サクヤでヴァンガードにアタックします！」

「ノーガード」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、ヒールトリガー。ダメージを回復し、パワーをメテオブレイクに！」

明久のダメージは4となる。

「ジェミニのブースト、メテオブレイク・ウィザードでバロミデスにアタックします！ さらにウィザードのカウンターブラストの効果で+3000し、パワーは26000です」

「く……。バロミデスをやらせるわけにはいかない……。エポナ、マロン、さらにアカネのインターセプトでガード！」

攻撃を防がれ、バロミデスはとどまった。

「なら、ダーク・キャットのブースト、レッドアイでヴァンガードにアタックします！」

「うーん、ここはノーガードでいいかな」

攻撃を受け、ダメージは5となる。

「私のターンは終了です」

「なら僕のターン、アルフレッドのカウンターブラストの効果を使い、山札からグレード2以下のロイヤルパラディンをコールする！僕は真理の騎士ゴードンをコール！」

さらにゴードンをコールし、バトルに入る。

「アルフレッドでヴァンガードにアタック！」

「ここは……バトルシスターしよこらで完全防御します！」

手札を1枚捨て、しよこらで完全防御する。

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、ヒールトリガー、ダメージ回復して、パワーはバロミデスに。そしてといぶがるのブースト、バロミデスでアタック！バロミデスの効果とトリガーの分で27000だ！」

「うう……ノーガードです……」

智花のダメージは4枚目となる。さらにゴードンの攻撃が続き、それもノーガードで通し、ダメージは5となる。

「僕のターンは終了」

「あのバカ、なんでウィザードをやらねーんだよ」

「でも、まだ手札は8枚……」

「相手も手札は6枚じゃぞ」

「では、私のターン、私は花占いの女神サクヤにライドします！」

再び、サクヤにライドする。

「またサクヤ！？」

その後、再びメテオブレイク・ウィザード、オラクルガーディア
ンジェミニ、三日月の女神ツクヨミがコールされ、ここからは違っ
ていた。

「邪眼の美姫エウリユアレーをコールします！ エウリユアレーの
効果、相手の手札1枚をバインドします！」

「え！？」

「そのカードをバインドします！」

「そ、そんな……！」

明久の手札はバインドされる。ちなみにバインドされたカードは
イゾルデであった。

「その後列にジェミニをコールしたところでバトルに入ります！
ジェミニのブースト、エウリユアレーでゴードンにアタックします
！」

「うう……ノーガード……」

ゴードンが倒される。

「ツクヨミのブースト、サクヤでヴァンガードにアタックします！」

「ここは、アラバスター・オウルとマロンでガード！」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、クリ
ティカルトリガー！ でも、攻撃は通らない……なら、ウィザード

にすべての効果をつけます！」

これでウィザードのパワーはブーストと効果を使えば26000。しかもクリティカル2もついている。

「ジェミニのブースト、ウィザードでヴァンガードにアタックします！ ここでウィザードの効果を使い、+3000です！」

ここで終わった……と思いきや……

「アラバスター・オウルとエポナでガード！」

「ええ！？」

ガードされ、攻撃は通らなかった。

「うう……ターン終了です」

「あ、危なかった……。ふふ、悪いけどここで決めさせるよ、智花ちゃん。ファイナルターン！」

明久のファイナルターン宣言する。

「僕のターン、騎士王アルフレッドをコール！ ヴァンガードのアルフレッドでヴァンガードにアタック！」

「まだまだですよ！ ロゼンジ・メイガス、レッドアイ、ジェミニでガードします！」

「く……、ツインドライブ！ ファーストチェック、クリティカル

トリガー！ これは全部バロミデスに！ セカンドチェック……
…よし、クリティカルトリガー！」

「ふええ！？」

「効果はリアガードのアルフレッドに！ といふがるのブースト、
バロミデスでアタック！」

「うう……ノーガードです……」

攻撃はとおり、これでダメージは6枚目になる。

「勝者、吉井明久君！」

「危なかった……」

「まさかクリティカル2枚引かれるなんて……」

智花の手札はしょこらにサイキック・バードとウィザードがあった。もしトリガーが1枚も来なかったら明久は負けていただろう。
お互い、自分のチームに戻る。

「すみません、結衣さん」

「ううん、智花ちゃんは最後まで頑張ったよ」

「そーだよ、もっかん」

「次はちなつちゃんだね」

「うん。結衣先輩！ 私、頑張ってきます！」

「頑張って」

「ちなつちゃん、頑張ってねー」

そして明久は……

「いやー、なんとか勝ったよ」

「なんとかじゃねえよ！」

「ええ！？ ほめないの……？」

「ほめるも何も、あの時、トリガーが来なければ負けてただろうに！ しかも、なんで最初からバロミデスからやるんだよ！？ 普通はアルフレッドからだろ！」

「でも、勝ったからいいじゃないか！」

明久と雄二が喧嘩している中、カムイが準備している。

「よっしゃー！ ようやく俺の出番だな！」

「頑張って、カムイ君」

「はい！ でも残念ですけど、お兄さんと櫂の出番はありませんよ。俺とミサキさんで決めるぜ！」

両者とも、前が出る。

「ちなつとிட்டな。悪いけど、残りの2戦は勝たせてもらっぜ！」

「ふふ、カムイ君には悪いけど私が勝つよ」

「へん！ やれるものならやってみろってんだ！」

お互い、デッキをシャッフルし、5枚引いたら引き直しをしたところで準備が整う。

「2人とも、準備はできましたか？」

「おう！」

「いつでもいいですよ」

「それでは、第六回戦にしてここからチームQ4VS娯楽部の初戦、葛木カムイ君VS吉川ちなつさんのバトル、スタートです」

「「スタンドアップ、ザ・ヴァンガード！」」

第五回戦 吉井明久VS湊智花（後書き）

いよいよ次回からチームQ4VS倶楽部のバトルが始まります。

倶楽部のみんなは強い設定にしています。

第六回戦 葛木カムイVS吉川ちなつ（前書き）

マジエスティデツキはもちろん作る予定です！

第六回戦 葛木カムイVS吉川ちなつ

第六回戦、葛木カムイと吉川ちなつのファイトが始まった。

「ブラウユンガー！」

「リザードソルジャーコンロー！」

「へっ！ 相手が懼と同じかげろうでも手加減はしないぜ！」

「その天狗になった鼻をへし曲げてあげるわ！ 先攻は私から、私のターン！ ドラゴンモンクゴジョーにライド！ コンローはリアガードに移動し、ゴジョーの効果でレストし、手札のかげろうを1枚捨てカード1枚ドロするわ。私のターンは終了」

「俺のターン！ ブラウパンツァーに俺様ライド！」

いつものように俺様ライドでブラウパンツァーにライドすると、ちなつがクスクスと笑う。

「俺様ライド……ふふ」

「何がおかしいんだ」

「いや、なんだか子供っぽくて可愛いなあって思っただけよ」

「な！ そ、そ、そんなこと言ったって俺を困惑させても無駄だ！」

「少し顔が赤くなってるけれど……」

「まったく……」

アイチたちも呆れる中、カムイのターンは続く。

「ブラウパンツァーのパワーはソウルにユンガーがいるため常に8000！そして、パンツァーの効果でユンガーにライドされた時、山札からブラウクリューガーを手札に加える！行くぜ、ブラウパンツァーでゴジョーにアタック！」

「ノーガードよ」

「ドライブトリガーチェック、トリガーはなしだ」

「ダメージチェック、こっちもトリガーなしね」

「ターン終了だ」

どちらも順調に進んでいく。その様子を綾乃たちは真剣に見ている。

「な、なんだか今までと雰囲気が違うわね……」

「ああ、今までの明久たちのバトルよりもすごいことになりそうだなぜ」

「私のターン、ベリコウステイドラゴンにライド。そしてコンローの効果を使い、退却させて山札からワイバーンガードバリイを手札に加えるわ。そして鎧の化身バーにコール。行くよ、カムイ君！バーのブースト、ベリコウステイドラゴンでブラウパンツァーにア

タック！」

「ノーガードだ！」

「ドライブチェック、ドロートリガー！ カード1枚引いてパワーはベリコウステイに！」

ヴァンガードの攻撃が当たり、カムイのダメージは1となる。

「さらに、ベリコウステイドラゴンの効果！ さっき、コンローのカウンターブラストで使った裏のダメージは表にする。これでターン終了よ」

両社とも互角の勝負。これをアイチたちも京子たちも真剣に見ていた。

「ちなつさん強い……」

「どっちもまだ大きな動きはない」

「あのノヴァの子やるな」

「おー。ちなつおねーちゃんががんばれー」

「俺のターン、ブラウクリューガーに俺様ライド！ 俺はストリート・バウンサー、デスアーミーガイをコール！ ストリート・バウンサーの効果！ 同じ後列のデスアーミーガイをレストし、カードを1枚引く。行くぜ！ ブラウクリューガーでベリコウステイドラゴンにアタック！」

「ノーガード」

「ドライブトリガーチェック、トリガーじゃないが、引いたカードはグレード3のアシュラカイザー。デスアーミーガイの効果でスタンドする！」

攻撃がヒットし、さらにデスアーミーガイがスタンドする。

「デスアーミーガイのブースト、ストリート・バウンサーでヴァンガードにアタック！」

「ノーガードよ」

ダメージはこれで3枚目になり、カムイのターンは終了する。

「ふん！ ちなつもなかなかやるけれど、俺様ほどでもないな」

「ふふ。ここからだよ、カムイ君！ 私のスタンド&ドロー！ ドラゴンモンクゴクウにライド！」

「ドラゴンモンクゴクウ……！！」

ゴクウにライドした瞬間、カムイは息をのむ。ドラゴンモンクゴクウはちなつの強力な切札であった。

「さらに、ドラゴニック・オーバーロード、鎧の化身バー、ドラゴンナイトネハーレンをコール！」

「お、オーバーロード！？」

「だから言ったでしょ。ここからが本番なんだって。オーバーロードのカウンターブラスト！ パワーは+5000し、リアガードにヒットすればスタンドできる効果を得る！」

「く……！」

いきなりの展開にカムイは戸惑い始めてしまった。ここからがちなつの攻撃が始まる。

「バーのブースト、ゴクウでブラウクリューガーにアタック！」

「の、ノーガード……！」

「ツインドライブ、ファーストチェック、クリティカルトリガー！ クリティカルはゴクウ、そしてパワーはオーバーロードに！ セカンドチェック、トリガーじゃないけれどグレード3のオーバーロード……！」

「な！？」

「ゴクウの効果でデスアーミーガイを退却……！」

ゴクウの効果によりデスアーミーガイは退却される。しかも今残っているのはオーバーロードとネハーレン。さらなる攻撃が続く。

「バーのブースト、オーバーロードでストリート・バウンサーにアタック！」

「ぐ……（まだ手札にはアシュラ・カイザーとシュテルン・ブラウ

クリューガーがいる……。でも、他はガードに使うグレード0にブリストに使うグレード1もあるし……。でも、ここは守るか……。プロメテウスとクララ、そしてスリーミリッツでガード！」

攻撃を防ぎ、オーバーロードの攻撃を止めた。

「なら、ネハーレンでブラウクリューガーにアタック！」

「ノーガード」

ダメージは4枚目。若干カムイが押され気味であった。

「ターン終了よ」

ごり押しで守ったためカムイの手札は4枚。ちなつはまだ6枚というまだ余裕であった。

「俺のターン！ 行くぜ！ 超俺様ライド！ 絶対無敵アーマー激誕！ シュテルン・ブラウクリューガー！！」

「来たわね、シュテルン・ブラウクリューガー」

「さらに、アシュラ・カイザー、ダンシング・ウルフをコール！ このターンで決めるしかないか……。アシュラ・カイザーでネハーレンにアタック！」

「ノーガード」

インターセプトを封じるため、ネハーレンを倒す。そして、シュテルンの攻撃が始まる。

「行くぜ！ ダンシング・ウルフのブースト、シュテルン・ブラウ
クリューガーでドラゴンモンクゴクウにアタック！」

「ノーガードよ」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック……！
クリティカルトリガー！ クリティカルはシュテルンに、そして
パワーはストリート・バウンサーに！ 行け！ スターダスト・シ
ューティングー！」

攻撃はヒットし、ダメージは4となり、5枚目はヒールトリガー
のため、ダメージは4枚のままであった。
パワーはオーバーロードにやった。

「ちい……なら、ストリート・バウンサーでゴクウにアタック！」

「ノーガード」

「ターン終了……」

「カムイ君……」

ここはシュテルンの効果を使うのだが、ちなつはさっきワイバー
ンガードバリィを手札に加えているため、使わなかった。

「吉川さんすごいわね……。あんな強そうな子相手に……」

「カムイがあんなに押されるのは權のファイト以来か……」

「私のターン、スタンド＆ドロ……。ふふ、ノーガードした意味わかるかな？」

「ノーガードの意味って……。あ！」

ちなつのダメージは5枚だが、表側は3枚あった。つまり、再びオーバーロードの効果が使えるということであった。

「ふふ、私はオーバーロードとアイアンテイルドラゴンをコール。そして後列がバーのオーバーロードの効果を使う。行くよ、バーのブースト、ゴクウでシュテルンにアタック！」

「く、シャイニング・レディとストリート・バウンサーのインターセプト！」

「ツインドライブ、ファーストチェック、クリティカルトリガー！効果は全部、効果を使っているオーバーロードに。セカンドチェック、またまたクリティカルトリガー！これは効果を使ってないオーバーロードに！」

「なに！？」

ダブルクリティカル。これはいつもの權の決めてであるパターンであった。その後もガードするすべもなく、ダメージは6枚目に。チームQ4VS娯楽部の初戦はQ4の黒星になった。

「勝者、吉川ちなつさん」

「やったー！」

「くそう……」

ちなつの勝利となる。2人とも自分のチームに戻っていく。特に、カムイはとても悔しそうであった。

「すみません、お兄さん……。俺……」

「うん。カムイ君も頑張ったよ」

「にしても、ちなつ強い……！」

「これを考えると、たぶん湊達よりははるかにレベルが違うだろうな。この後出てくる歳納に赤座、そして船見……」

「でも、まだわかりませんよ」

「じゃ、私行ってくるね」

「ミサキさん、頑張って」

「うん」

そしてちなつは……

「やったねー！　ちなつちゃん！」

「ちょ、京子先輩……！」

「いやー、ちなたん強かったなー」

「当然よ。結衣先輩や京子先輩にいつぱい教えてもらっただから」

「ちなつちゃん、一方的に押してたね」

「それと、次は京子先輩じゃないんですか？」

「あ、そうだね。じゃあ、頑張ってくるよ」

「きょーたんがんばれー！」

「おー。きょーこおねーちゃんがばー」

「綾乃ー、私の戦い、ちゃんと見ていてよー」

「言われなくても、ちゃんと見てるわよ！」

「はあ……幸せやー」

「ちょー！ 千歳ちゃん……！ 鼻血！ 鼻血！」

三和が千歳の鼻血をティッシュでおさえている中、ミサキと京子の2人が前に出る。

「まさか、初戦でカムイが負けちゃうなんてね……」

「いやー、ミサキー又に褒められると照れますなー」

「変なあだ名で呼ぶな！」

「ま、あかりとちなつちゃん、智花ちゃんたちにヴァンガードを教

えたのは私と結衣だから教えている私が負けたらあの子たちにかつこ悪いしね。この勝負、勝ちに行くよ」

（そうだった……。ふざけているけどおそらく歳納京子も強い……。だからと言って私も負けるわけにはいかない！ 全力でいかせてもらうよ。京子！）

ミサキと京子はデッキをシャッフルし、引き直しをした後、準備が整う。

「2人とも、準備はできましたか？」

「うん」

「いつでもオーケーだよー」

「それでは第七回戦、戸倉ミサキさんVS歳納京子さんのバトル、スタートです」

「「スタンドアップ、ザ・ヴァンガード！」」

第七回戦 戸倉ミサキVS歳納京子（前書き）

今年の4月はヴァンガードの二期、7月はゆるゆりの二期……！

お楽しみがいっぱいです！！

第七回戦 戸倉ミサキVS歳納京子

第七回戦、ミサキと京子のファイトが始まる。

「神鷹 一拍子！」

「イニグマン・フロー！」

ミサキはいつも通りのオラクルシンクタンクデッキ。京子はディメンションポリスデッキであった。

「先攻もらうねー。私のターン、イニグマン・リプルにライド！リプルはソウルにフローがいるのでパワーは常に8000。そして、フローのスキル、リプルにライドされた時、デッキからイニグマン・ウェーブを手札に加える。私のターンは終了だよ」

「ミサキさんもオラクルね。京子は……なんだかまるでスーパーヒーローみたいね」

「ディメンションポリスや。正義の味方のクランやで」

「相手は順調なすべり出しだな……」

「ここはねーちゃんには勝ってもらはないと」

「あのカムイが負けたしな。あとに出てくる子たちも強いだろーな」

綾乃たちの会話が続く中、ミサキのターンに入る。

「私のターン、神鷹 一拍子のスキル。デッキの5枚をめくり、その中に三日月の女神ツクヨミがいればスペリオルライドできる。よし、三日月の女神ツクヨミにライド！ 行くよ、三日月の女神ツクヨミでリプルにアタック！」

「ノーガード」

「ドライブトリガーチェック、トリガーはなし」

ツクヨミのパワーは7000のため、攻撃は通らなかった。

「ターン終了」

「私のターン、イニグマン・ウェーブにライド！」

ウェーブのスキルでソウルにリプルがいればパワーは10000。

「残念だったね、ミサキヌ。さっきの攻撃が通らなかったのは痛いよ」

「勝負はまだ始まったばかり。私は負けない！」

「威勢はいいね。でも、私だって負けないよ！ パープルさんのために！」

「ほんとにパープル好きだな……」

パープルとはパープル・トラピージストのことである。そして今回のチーム大会の優勝賞品である。パープルのためなら必死の京子に呆れる結衣。

京子のターンは続く。

「さらに、マスクドポリス・グレンダー、グローリー・メイカーをコール！ これで準備は整ったから、マスクドポリス・グレンダーで三日月の女神ツクヨミにアタック！」

「ノーガード」

攻撃を受け、ミサキのダメージは1枚目。

「さらに、グレンダーのスキルでウェーブのパワー+2000！
グローリー・メイカーのブースト、イニグマン・ウェーブで三日月の女神ツクヨミにアタック！」

「ノーガード」

「ドライブチェック、トリガーはなし」

ミサキのダメージは2枚目となる。

「ターン終了」

「お、おいおい……ねーちゃんが押されてんじゃねえか……」

「あのリボンのダメージはまだ0。これはちょっときついな……」

「ミサキさん……」

「私のターン、三日月の女神のスキル、山札の上から5枚を見て、半月の女神ツクヨミがいれば、スペリオルライドできる。……ない。」

なら、手札から、半月の女神ツクヨミにライド！」

手札からライドし、スキルで山札の上から2枚をソウルにおく。

「サイレント・トム、オラクルガーディアン・ジェミニ、バトルシスターここあをコール！ ここあのスキルで山札の一番上を見る。そして山札の上か下に置く。これは下」

順調にいつているようだが、ミサキは焦っていた。それは手札に満月の女神ツクヨミがなかったからだった。

（満月の女神がない……。このままじゃ、京子に押されるばかり……）

それでも今は攻めるしかなかった。

「ここあのブースト、半月の女神でイニグマン・ウェーブにアタック！」

「ノーガード」

「トリガーチェック、クリティカルトリガー！ クリティカルは半月の女神に、パワーはサイレント・トムに！」

ようやく京子にダメージ2を与える。

「ジェミニのブースト、サイレント・トムでイニグマン・ウェーブにアタック！」

「サイレント・トム厄介だなー。ノーガード」

攻撃が通り、京子のダメージは3枚目。ようやく追い詰めた。

「ターン終了」

「私のスタンド&ドロ。行くよ、世界の平和を守るため、すべての悪に立ち向かえ！ ライド！ イニグマン・ストーム！！」

ライド台詞を言いつつ、イニグマン・ストームにライドされる。すると、京子がこんなことを言い出したくる。

「もしかして、満月の女神がなくて困ってるの？」

「え！？」

「表情でもうバレバレだよ。さっきから難しい顔をしていたし」

「！」

ミサキは思わずドキッとびっくりしてしまう。京子にはもう満月の女神がないことをばれてしまったからであった。

「だからと言って、手加減はしないよ。イニグマン・ウェーブ、コマンダー・ローレル、カレンロイド・デ이지をコール。これから私の攻撃だよ。グローリー・メイカーのブースト、イニグマン・ストームでサイレント・トムにアタック！」

「サイレント・トムから……！ ノーガード」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、スタ

ンドトリガー！ パワーはイニグマン・ストームに、後列のグローリー・メイカーをスタンドっと」

攻撃がヒットし、サイレント・トムが倒される。すると、森川がクスクスと笑い始める。

「ぶぶ、アイツバカだな。なんでイニグマン・ストームにパワーでグローリー・メイカーをスタンドさせるんだか」

「森川、きもいぞ」

「いや、ちゃんと意味があるんだなこれが」

「え？」

「ここでコマンダー・ローレルのスキル。ヴァンガードが攻撃にヒットした時に、自分のリアガード4体レストし、ヴァンガードをスタンドさせる！」

「何！？」

「ヴァンガードをスタンド！？」

スタンドされ、再びイニグマン・ストームの攻撃が襲い掛かる。

「ふふ、トリガーでパワー上げているからストームのクリティカルは2。行くよー！ グローリー・メイカーのブースト、イニグマン・ストームで半月の女神ツクヨミにアタック！」

「ノーガード」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、トリガーはなし」

ヴァンガードに攻撃がヒットし、ダメージは一気に4枚目となった。

「ターン終了」

「手札があんなに……」

「ミサキさんが押されてる……」

アイチたちも心配する中、ミサキもまだ負けてはいなかった。

「（強い……。でも、私だって負けない！）私のターン、スタンド&ドロー。半月の女神ツクヨミのスキル」

半月の女神のスキルを使い、満月の女神がないか見るが……

「……満月の女神がない……。なら、手札からCEOアマテラスにライド！」

やむを得ず、CEOアマテラスにライドする。

「アマテラスのスキル、ソウルチャージし、山札の一番上を見る。これは一番下に。メテオブレイク・ウィザード、戦巫女 タギツヒメ、オラクルガーディアンジェミニをコール！ 行くよ！ ここあのブースト、アマテラスでイニグマン・ストームにアタック！」

「ふふん、ダイヤモンド・エースの完全防御！ 手札からディメンションポリス1枚捨てるね」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、トリガーはなし」

トリガーはなかったが、2枚目が満月の女神ツクヨミがあった。

「（よし、これで……）ジェミニのブースト、ウィザードでイニグマン・ストームにアタック！」

「ノーガード」

「ジェミニのブースト、タギツヒメでアタック！」

「これはマスクドポリス・グレンダーとイニグマン・ウェーブのインターセプトでガード」

京子のダメージは4枚目となる。ミサキのターンは終了する。

（手札には、サイキック・バード2枚とオラクルガーディアンワイズマンに満月の女神ツクヨミ！ これで、京子に……！）

「ふっふっふ、満月の女神引いたね。でも、残念。これで私のファイナルターン！」

「え！？」

ファイナルターン宣言し、京子のターンに入る。

「コスモロアーをコール。スキル使ってレストし、イニグマン・ストームのパワー+2000。そして、コスモロアー退却して、コスモビークをコール。コスモビークのカウンターブラスト、イニグマン・ストームのパワー+4000！さらにコスモビークコールして、カウンターブラストでイニグマン・ストームのパワー+4000！これでイニグマン・ストームのパワーは21000！」

「に、21000!？」

前代未聞のパワー21000。さらにグローリー・メイカーのブリストで+10000で31000となる。

さらに、パワーが15000以上のため、イニグマン・ストームのクリティカルは2であった。

「ふっふっふ、この攻撃を防げれるかな？ まずは、カレンロイド・レイジーのブリスト、コスモビークでタギツヒメにアタック！」

「ノーガード……」

「そして、グローリー・メイカーのブリスト、イニグマン・ストームでアマテラスにアタック！」

「まだよ、サイキックバード2体とワイズマンでガード！」

「ツインドライブ、ファーストチェック、セカンドチェック、クリティカルトリガー！」

「!！」

「効果は全部、イニグマン・ストームに！」

トリガーでクリティカルは3となり、パワーは36000。さすがにミサキのダメージも6枚目になる。

「勝者、歳納京子さん」

「やった　　！」

「負けた……」

「いやー、早く満月の女神にライドされたら負けてたよ。ミサキー又強かったよ」

「そついう、京子こそ」

「ありがとう」

お互い握手を交わし、自分のチームに戻っていく。

「やったよーみんなー」

「ほんとにパープル欲しいんだな」

「もちろん！」

「つ、次はあかりの番……」

「あかりちゃん、頑張って」

「あかりんならいけるって！」

「あかりちゃん、頑張つてやー」

「千歳先輩」

みんなの声援にこたえるため、あかりは前に出る。そしてミサキは

「ごめん、負けちゃった……」

「ミサキさん……」

「なんだよ……。俺たちチームQ4が2連敗じゃねえか……」

カムイの言うとおり、カムイとミサキで2連敗し、次負けたら相手の勝利となってしまう。

「次負けたら……」

「俺の番だな」

さつきからあまりしゃべっていない櫛の出番だった。

「櫛君」

「櫛！ お前、ここで負けたらしょうちしねーぞ！」

櫛も前が出る。あかりはとても緊張気味であった。

「あ、あの……」

「赤座あかりと言ったな。お前の実力、見させてもらっ」

「あ、その……よろしくお願いします！」

お互いデッキをシャッフルし、5枚引いて引き直しを終えると準備が整う。

「2人とも準備はいいですか？」

「ああ」

「はい」

「それでは第八回戦 櫛トシキ君VS赤座あかりさんのバトル、スタートです」

「「スタンドアップ、ザ・ヴァンガード!!」」

第七回戦 戸倉ミサキVS歳納京子（後書き）

カムイ君とミサキさんのファンのみなさん、負けさせて申し訳ありません！

次回はいよいよ權君の番です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9851z/>

～ 双剣覚醒発売記念企画～ バカとイメージと先導者VSゆるい口ウきゅーぽ

2012年1月12日20時49分発行